

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第33号 (2009 11)
事務局川西地区自主防災会

自分で守ろう大事なわが家

<住宅の耐震診断のすすめ>

私達の自治会館は50年前に市内の小学校の校舎を再利用した建物です。室内は改装しており、見たところ何も心配することは無いような状況です。しかし使用された年数（小学校としての使用年数+自治会館50年）からして、次期南海地震には耐えられないと考え、香川県建築士事務所協会へ相談させていただきました。

まずは耐震診断を受けてはどうですか？とアドバイスをいただき、私も費用、調査方法をお聞きし、自治会員に同意をいただいた後、耐震診断を受けることになりました。

自治会館の床下、天井裏、壁の内部、屋根材等を数名による調査を行った結果、

「上部構造評点 東西方向 0.49、南北方向 0.63」倒壊の可能性が大

ということになりました。この結果を踏まえ、自治会の中で議論を重ね、「耐震改修」を行うか、「新築」を行うか、費用対効果と更に将来展望も考え「新築」案を選びました。2014年の完成を目指して、資金計画、概案図の作成、木造 or 鉄骨構造かなど自治会建設委員会で検討中であります。

皆様のところはいかがですか？

<情報提供：丸亀市川西地区中北自治会会長岩崎正朔>

○耐震診断の方法

次の二種類があります。

	一般診断法	精密診断法
診断者	建築士や技術者	やや高度な建築に関する知識・経験を有する技術者
調査方法	非破壊による調査	外装材の引き剥がし等も伴う
劣化の評価	全体で評価	部位別で評価
雑壁の評価	一律評価	個別に評価
計算方法	壁量の単純加算	保有水平耐力計算や限界耐力計算、時刻歴応答計算による検証が可能
費用	相対的に小さい	相対的に大きい
期間	相対的に短い	相対的に長い



○診断結果の見方

上部構造評点は、右表のとおり示されます。

1.0以上が一つの目安となります。

地盤や基礎等は、注意事項として示されます



上部構造評点	判定
1.5以上	倒壊しない
1.0以上1.5未満	一応倒壊しない
0.7以上1.0未満	倒壊する可能性がある
0.7未満	倒壊する可能性が高い